

どーらく 改題 逆説土楽たより

断捨離考

3月号(NO18)通巻 168号

2020年3月10日(火)発行(毎月10日)

【農暦】春は嬉しいが、複雑な心境に！

○5日は啓蟄とニュースで聴く。畑、剪定など作業は一里塚である。剪定できない枝に花芽が膨らみ始めている。枯草の間からフキノトウの花が咲いていた。春はそこまで来ている。今年もまた多くの農作業を残したまま春を迎える。春は嬉しいが、複雑な心境にある。新型コロナウイルスの広がりや落ち着かない日々が続いている。

○8日の朝日に、感染、世界で10万人超、100ヶ国・地域に。7日の素粒子欄に、周章狼狽(感染が世界に広がる今、中韓からの入国を制限しても。効果は、弊害は)二転三転

(水際⇒国内⇒水際。動揺する政府方針。国民や医療現場に戸惑いを広げ)唯我独尊(専門家会議の知見を聴かず、科学根拠も説明せず。首相の独走、再び)の四文字熟語で政府の対策を端的に伝えていた。外国のメディアからも批判されていると聞く。問題が多い。SNSのちょっとした書き込みがマスク、トイレトペーパーなど売り場の棚から消えることにつながったという。

○小中高の休校、イベントの中止、観光客激減などで経済への打撃は計り知れないものがある。首相は支援を連発するが社会保障費が不足すると消費税を上げたばかりである。弱者が追い詰められないように真摯な履行をと思う。また、排外主義的な言動もあると聞くと、人権(私権)のデリケートなところは大事にして欲しいと改めて思う。緊急事態対応(私権制限?)法改正が進められると聞く、盲動も暴走もしてはならない。政権の真価が問われている。

○芽吹きは樹木だけでは無い、ホトケノザ、オイヌノフグリなども一斉に始まりそうである。猶予無しである。ブルーベリーで指導を受けた尿素的な施肥をした。根の周りは雑草が活動を始めている。既に遅れをとっている。キタアカリの種芋を先日購入した。遅霜はなさそうである。来週には植込みしたい。その前に、春耕、剪定枝の処分、除草などやらなくてはならない。農日和は少ない。“土楽”の壁は高くなるばかりである。(了)

【楽農】<畑>ブルーベリーの剪定と尿素的な施肥。キウイの剪定。春耕など畑と剪定処分など進まず。

【楽市】イベント交流・直売など。

○イベントなど;詩吟例会(13・27日)トモアまつりに参加;共生の会・川柳の会(23日)TBG



<手賀沼の河津桜?>春の陽射し誘われて。1日撮影



<マスク購入者の列>ショッピングモールで。4日撮影

涸沼大会 (25 日) ごみを考える会環境講座 (26 日) 誕生会 (3 日) 荒牧里親クリーン (7 日) に参加など。共生の会・川柳の会はコロナ対応で中止。

【つぶやき=Tweet】世界には二種類の人間があるだけ！

○「皆さん、世界には二種類の人間がただです。無欲に他人を思う人、そして己の利益を図るのに心がくもった人です。」国を超え、宗教・人種を超え、性別を超え、人間はこの二種類なのだと思った。確かにそうだと思う。そして前者になれるのだろうかと思う。なれなくてもなりたいたいと思う。複雑で煩わしい人との関わり方が単純で平易なものに見える。「PMS (平和医療団・日本) はいずれか、お分かりでしょう。私たちはあなたたち日本人と日本を永遠に忘れません」と、この言葉につづいた。

○9・11 後、アメリカの大規模な報復空爆からの退避に際して。アフガニスタンの長老らしき風貌のタラフダール氏のものである。大変な状況の中に在る人の言葉には真理がある。重い。カッコは“天、共にあり、アフガニスタン 30 年の戦い (中村哲著)”からの引用である。

○ペシャワール会 (中村医師と PMS の現地活動を支援する会) の日本での活動のことを友人のブログで知っていた (土楽たより 12 月号に記載) ので。本屋の店頭で見て、気になっていたの、買う。また購読することで、繋がりたいと思ったのかも知れない。著者とは、ほぼ同じ世代なので、似たような時代を経験している。こんな人生を理想としていたような気もする。だが、能力や資質の違いは否めないものがある。

○この本の、はじめに、「遠いアフガニスタンのかかえる問題が、実は『平和と戦争』と共に『環境問題』という、日本の私たちに共通する課題として」と、ある。五章には、「古くて新しい問題で、百年も前に、渡良瀬川流域の足尾鉍毒事件の解決に一生をささげた田中政造翁のことばが印象的に心を捉える」とあった。「以上の毒野も、うかと思れば普通の原野なり、涙だを以って見れば地獄の餓鬼のみ、気力を以って見れば竹槍、臆病を以って見れば疾病のみ」と翁のことばが記されていた。「我々に足りないのは気力と涙である。PMS もまた、心ある人々の意を体して荒野に緑野を回復し、日本の良心の気力を示そうとするものであった」と結んでいた。本質を端的に言い当てた重い言葉である。また、加藤清正の馬場楠鼻ぐり井手 (熊本県白川上流) を参考にした、とある。日本には治水に功績のある先人は多い。空海も有名。多引用を謝し、購読を薦めたい。(了)

○断捨離考：、コロナを理由出来ないが、断捨離は再決意が、不燃物ごみ出しだけ。

【後記】コロナ、寒暖差、何となく落ち着かない。芽吹き始まる。Kogure 農場に【編集せずランダム構成】



**<手賀沼>道の駅で食事の後に、
1 日撮影**

発行者；小暮虎雄

住所；笠間市本戸 4 2 0 1 - 1 0

携帯電話；0 9 0 - 9 3 3 3 - 4 1 3 5

HP；k o g u r e 農場

メール；torao-k@nifty.com